

ジョン・オームスピー・サイモンズ
久保 貞外訳

ランドスケープ・

アーキテクチャ

人は最初から動物なのであり、牧場や、森や、平原から生れてきた。胸の中には新鮮な空気を、足の下にはじめじめしない道を、肌には身にしみる陽光を受けて育ってきた。だから人間の心の奥では、このことを心から望み、ときにはそれがどうしても必要となってくる。人間が十分な生活を営んでゆくには、このような環境が必要である。にもかかわらず、われわれは、このことをあまり考えずに、もの寂しい町の中に、ごちゃごちゃした家並や、工場や、学校や、家庭を作ってきた。生活空間や都市や、交通網を展開してゆく複雑な過程の中のどこかで、現代人は自らの機械力や、新しい建築技術の追跡や新しい構造材料などに熱中したあまり、人間自らを軽視することとなった。

計画者の仕事は、人々のためによりよい生活とよりよい環境を創り出すことであって、ランドスケープ・アーキテクチャとは、よりよい生活環境を創り出すために地上の諸要素を最も合理的に効果的に利用して、自然と人工の調和をはかることだといえる。そのために、本書は7章にわたって景観の生活への導入、利用について述べている。1章 基礎的事項では、景観要素について、2章 敷地では、いくつかの敷地のもつ景観特徴と、設計への応用について、3章 有機的空間では、空間を形成する平面要素、天蓋要素、立面要素について、4章 配置計画を視覚面では、ヴィスタ、軸、シンメトリーについて、5章 サーキュレーションでは、人の動きを誘発する諸条件について、6章 景観と構造物では、空間と構造物の結びつけについて、7章 地域計画では、人間の尺度を考えた環境計画への方針について述べている。

ばく然としがちな景観の概念を、豊富な実例によって説明し、読んでいて飽きさせない書物である。と同時に景観の計画設計への導入がいかに大切かを知らせてくれるものである。

[N]

鹿島出版会刊, A 4判変形・244 ページ, 定価 5 300 円

岩塚良三・松本克巳 共著

下水道管きょ工事における
シールド工法

田辺一彦・松下邦治郎 共著

機械化シールド

シールド工法は、わが国では最初に昭和 14 年関門トンネルにおいて、同 28 年に再び関門国道トンネルに使用された。その後、ヨーロッパにおいて急速に進歩した本工法は、わが国の活発化する都市土木の要請により、その技術が導入され、現在では実用化され、多くの実施例を持つに至った。ここに紹介する二書のうち、前者はシールド工法の全般に関し記述したものであり、後者は掘削を機械化したものを詳述している。この二書により、シールド工法の基礎と、施工例を基としての応用とが、十分に理解できるものと考えられる。前者「下水道管きょ工事におけるシールド工法」は著者が下水道技術者であり、実施例も題名に「下水道管きょ工事における」と限定していることから、おのずと限られてはくるが、シールド工法の全般を知るに必要な事象を、多くの図面と写真でわかりよく十分に記述している。入門書としてはもちろんのこと、計画および施工のガイドブックとしても利用できる内容を持っていると考えられる。内容はつぎの5章よりなっている。すなわち、(1) シールド工法の概要：シールド工法の特性と原理、(2) シールド：シールドの種類、構造と各部の働きおよび設計例、(3) セグメント：種類、設計および計算例、(4) 施工：計画、問題点、設備、立坑、掘削、圧気、シールドの蛇行と回転、覆工、裏込注入、坑内測量および工期

後者「機械化シールド」は、多くの実施例をもとに詳述してあり、研究、改良すべき問題点が明らかにされている点が強味である。このことからシールド関係者は一読する価値があると考えられる。内容はつぎの3章からなっている。すなわち、(1) 概論：長所、欠点、採用条件および各部の機能、(2) 機械化シールド設計に用いられる算定式、(3) 実施例：東京、大阪および名古屋における実施例および特殊シールドである。

[U]

前書／理工図書刊, A 5判・186 ページ, 定価 1 100 円
後書／鹿島出版会刊, A 5判・151 ページ, 定価 1 100 円